

一筆啓上

作左通信



第六十六号 平成二十六年六月二十六日(木)発行

作左の会 三河一向一揆を訪ねて

さる六月十四日(土)「一筆啓上・作左の会」主催の三河一向一揆を訪ねての研修旅行が、三十八名の参加で行われた。

移動中のバスの中で、岡崎地方史研究会幹事の奥田敏治氏より、「三河一向一揆」のあらましを聞き、最初に訪れたのは、上佐々木町にある「太子山上宮寺」で、昭和六十三年に本堂、庫裏が全焼、その後再建された。遠くから見ると



太子山上宮寺の本堂

とお寺と思えない現代風(インドのお寺を参考にしている)で、屋根は銅板葺きになっている。聖徳太

と、また、親鸞聖人の直弟子佐々木三郎盛綱や蓮行、蓮如を支えた如光の話を聞き、二尊連の珍しい掛け軸を見ることが出来た。そして、この上宮寺に本多作左衛門が三河一向一揆に関与していた書状があると聞き期待をして行ったが、見ることは出来なかった。その後、特別に宝物殿を見学、一向一揆の拠点であったことを理解することが出来た。



子によって開山されたこ

次に十分ほどバスに揺られて着いたのが、安城市歴史博物館で、早速学芸員の方から説明を受けた。丁



歴史博物館で真剣に説明を聞く参加者

度一階では、安城の文化財―モノ語り名品展―が開催されており、十二神将像(像の頭部に十二支が刻まれている)や江戸時代に作られた「からくり人形」、「人面土器」、「日本地図屏

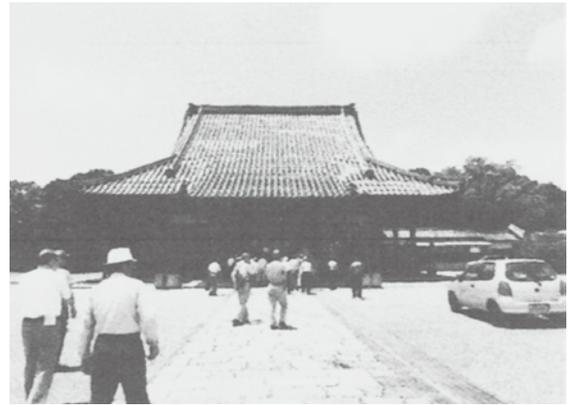
風」等沢山の名品を見るこ
とが出来た。日本地図屏風
の前では、「あつた！岡崎、
刈谷、西尾」と言った声も
聴くことが出来た。二階で
は、矢作川流域の歴史や文
化を再認識することが沢
山あり満足出来た。

最後に、三河一向宗三ヶ
寺の一つ安城市野寺町に
ある「雲龍山本證寺」を



雲龍山本證寺の山門と鼓楼

見学した。



雲龍山本證寺の本堂

ここでは安城市ボラン
ティアの方々から、この寺
は慶円上人が開山したと
言われており、外堀、内堀
の二重の堀と土塁を持つ
「城郭寺院」として知られ
ている。

山門右側に鼓楼（時を報
ずる太鼓を懸けた楼）があ
るなど当時三河地方では
かなり大きな勢力を持つ

ていて、家康に立ち向かっ
た主力部隊が、ここ本證寺
にあつたなどの説明があ
つた。

最近にない内容のある
勉強会であつたせいにか
少々おなかも減つたよう
で、西尾市内で豪華な(?)
昼食を和やかな雰囲気
の中で食べ、参加者同士の交
流を深めることが出来た。

その後、腹ごなしに近く
にある西尾市歴史公園を
散策する。中には計画外の
研修をした方もいたよう
です。



抹茶体験をする方々



本證寺にて参加者全員による記念撮影

参加して頂いた会員の
皆様本当にありがとうございました。
ございました。今後とも、「一
筆啓上 作左の会」にご理
解とご協力をお願いしま
す。

編集後記

作左通信や作左の会に関して
ご意見ご要望等がありましたら
役員までご連絡ください。